

# 青森県の市町村情報



## 五戸町ミニデータ

- 人口 15,653人  
(男 7,571人、女 8,082人)
- 世帯数 6,999 世帯  
(令和6年1月1日現在)
- 特産品  
馬肉、あおもり倉石牛、青森しゃもロック、りんご、さくらんぼ、にんにく、長いも、アピオス

【概況】青森県の南部に位置し、八戸市や十和田市と隣接しています。山間にあるため平らな道は少なく、坂が多いのが特徴です。奥州街道が通っていて、古くは宿場町として栄えました。五戸町のPRキャラクターは「おんこちゃん」。

## 五戸町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。

今回は『このヘユースセンター』をご紹介します。

一般社団法人わのまち代表理事の木村優哉さんにお話を伺いました。



▲「このヘユースセンター」  
一般社団法人わのまち  
代表理事の木村優哉さん。

**子ども・若者の可能性を広げる拠点「このヘユースセンター」**

ユースセンターとは、地域にいる中高生が集まる居場所。地域内外の多様な人と出会い、さまざまなことにチャレンジしながら学びを深めるための拠点です。喫茶店だった店舗の1階をリノベーションして五戸町の中心商店街の一角にオープンした「このヘユースセンター」を運営しているのは、一般社団法人わのまちの代表理事を務める木村優哉さんです。

「五戸町では2021年度から、2021年度で閉校になった五戸高校の生徒たちと、まちづくりに関心のある地域の大人をつなぐ場として『このへまちづくりワールドカフェ』を継続して開催しており、そこで出た話をきっかけにさまざまなプロジェクトが動いています。そんなとき、休眠預金を活用した資金配分団体からユースセンターを立ち上げる法人の募集がありました。ワールドカフェを通して、地域に魅力を感じている若者や、応援してくれる地域の人たちがいる五戸町でユースセンターを実現することが地域にとって良い動きになるはずだと思ったことが設立のきっかけです。助成

金を受けて2022年度からユースセンター設立に向けて動き出し、商店街のイベントを経て、2023年夏ようやく青森県初のユースセンターが正式オープンしました。地域にはいろんな価値観や経験を持った人がいて、多様な人生がある。子どもたちと地域住民をつなぐ橋渡しの居場所になることで、子どもたちの選択肢も広げたい」と木村さんは語ります。

### ユースセンターから広がる地域づくりが町全体を元気に

このヘユースセンターは、毎週土日の13時〜17時に場所を開放し、主に小中学生が利用しています。ユースセンターの運営スタッフ4名がローテーションで常駐し、子どもたちとコミュニケーションを取っているそう。ゲームをしたり、勉強をしたり、過ごし方は子どもによってさまざまです。また、月に一度五戸町の公共施設で地域の方とごさくばらんに地域のことについて話すワールドカフェにも参加しています。「運営スタッフのなかには、地元に残りスタッフをしてきている学生もいます。そういう子が関わってくれるのは嬉しいですね。また、進学や就職で五戸町から一度離れた人たちが帰省したときに地域とつながるサポートができればいいなと思っています。五戸町の子どもたちが、主体性を持ってさまざまなことに挑戦できるようにしてほしいです」と木村さん。今後は地域の有志の方や五戸町にも運営に協力いただきながらこのヘユースセンターを維持できる体制を整えていきたいと話しています。

### 私が男女共同参画を担当しています

五戸町総合政策課  
主事

太田中 彩花 さん



五戸町では令和3年に「第2次五戸町男女共同参画推進計画」を策定しました。この計画は「市町村男女共同参画計画」のほか、新たに「市町村女性活躍推進計画」としても位置づけられています。また、社会情勢の変化を踏まえ、安心して暮らせる環境づくりとして、高齢者や障がい者の自立した生活に対する支援が施策化され新たに加わっています。

令和4年度にはあおもりウィメンズアカデミー地域女性リーダーコースが五戸町で開催され、20〜70代の13名の女性が参加しました。シニアチームと子育てチームの2チームが地域課題に取り組み、そこで生まれたイベント「ごちゃまぜひろば」が実現されました。また、五戸町は三八地域男女共同参画ネットワーク事業に参画しており、令和5年度は事務局を担当しています。令和6年2月には三八地域の地域住民を対象にした男女共同参画について考える学習会も開催しました。

このヘユースセンターは、小中高生の家・学校以外の第三の居場所として賑わっていることを嬉しく思います。町が元気になる拠点となることを期待しています。

(取材・鈴木 麻理奈)